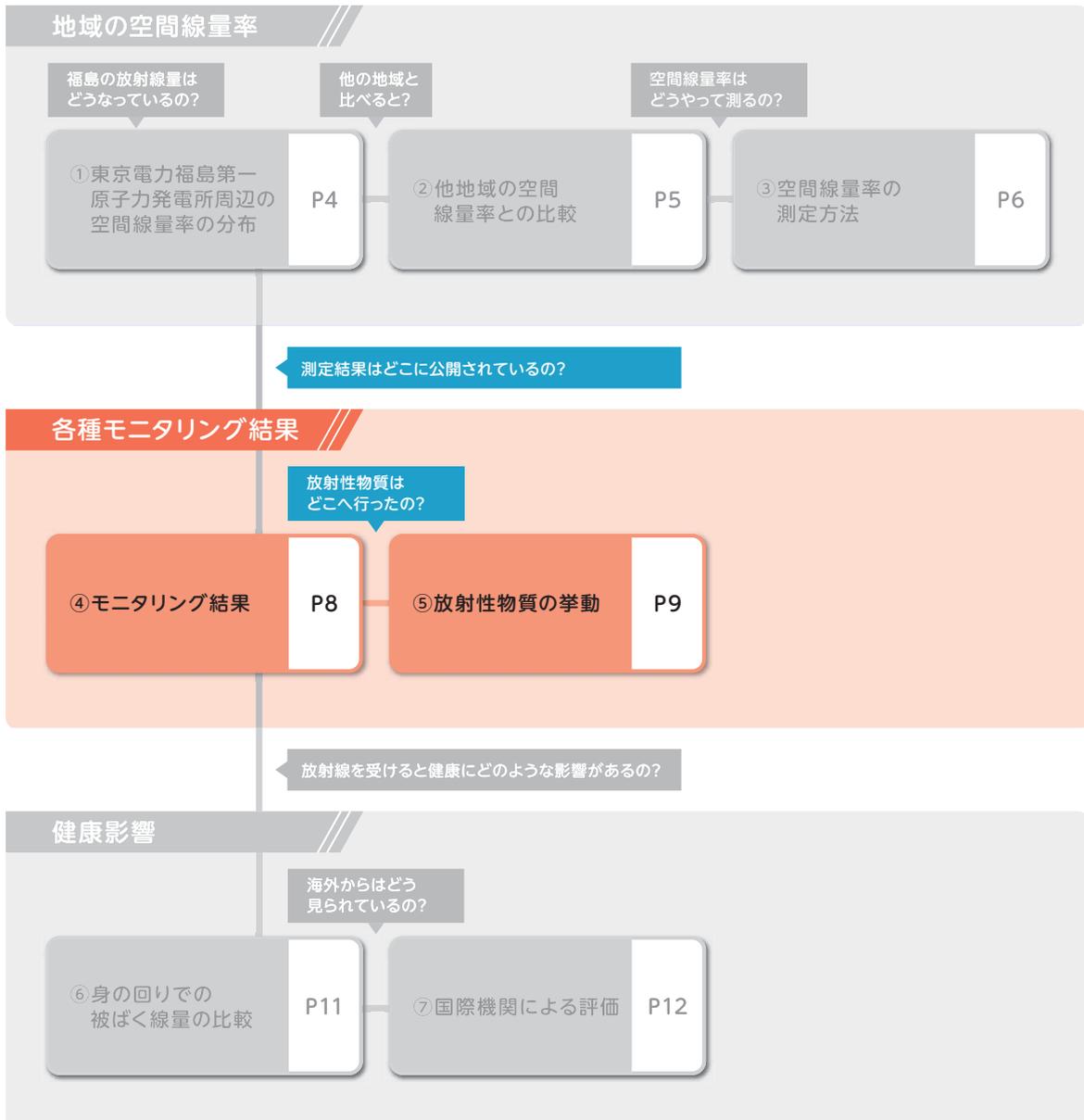




テーマ 各種モニタリング結果

東京電力福島第一原子力発電所事故に伴い実施されている様々なモニタリング調査を紹介しています。また、放出された放射性物質の環境中での動きについても説明しています。





④ モニタリング結果

福島県内では、放射線量、放射性物質を把握するため、空間線量率を測定する以外にも、様々なデータについてモニタリングが実施されています。

◎ 総合モニタリング計画と情報の公開について

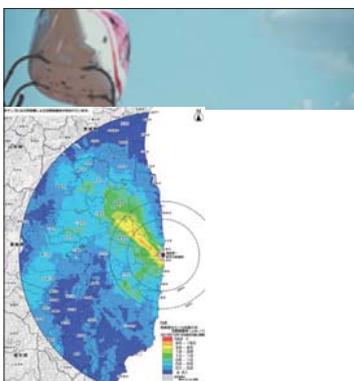
原子力災害対策本部に設置したモニタリング調整会議において、総合モニタリング計画を策定し、関係機関や原子力事業者等の連携によりモニタリングが実施されています。結果は関係機関においてウェブ上に公開し、随時更新されています。

● 放射線量測定マップ



全国の放射線モニタリング結果をマップ形式で閲覧できます。

● 航空機モニタリング



福島県を中心に航空機によるモニタリングを定期的実施し、空間線量率マップを公表しています。

● 海洋モニタリング



関係府省庁が海水、海底土壌及び海洋生物のモニタリングを実施し、測定結果を公表しています。

原子力規制委員会 放射線モニタリング情報 <https://radioactivity.nra.go.jp/ja/>
総合モニタリング計画 <https://radioactivity.nra.go.jp/ja/list/511/list-1.html> より作成

総合モニタリング計画の詳細は令和4年度版 下巻 23 ページを参照

総合モニタリング計画によって実施されているモニタリングについて、主な結果を紹介します。

● 福島県の森林の空間線量率の変化



継続して観測している362箇所の空間線量率の平均値は、事故直後と比較して20%以下となるなど、大幅な減少が見られています。

● 福島県の井戸水の検査結果



これまでの調査では井戸水から放射性物質は一度も検出されておらず、「ND」(検出限界値未満)です。

● 福島県及び周辺地域^{*1}における公共用水域のモニタリング結果



約600地点でのモニタリングが実施されており、現在ではごく一部を除き不検出となっています。

● 福島県及び周辺地域^{*2}の水道水モニタリング結果



2011年5月以降は10Bq/kgを超えて検出されたという報告はありません。

*1 福島県、宮城県、茨城県、栃木県、群馬県の全域及び岩手県、千葉県の一部

*2 福島県及びその近隣の10都県(宮城県、山形県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県及び新潟県)

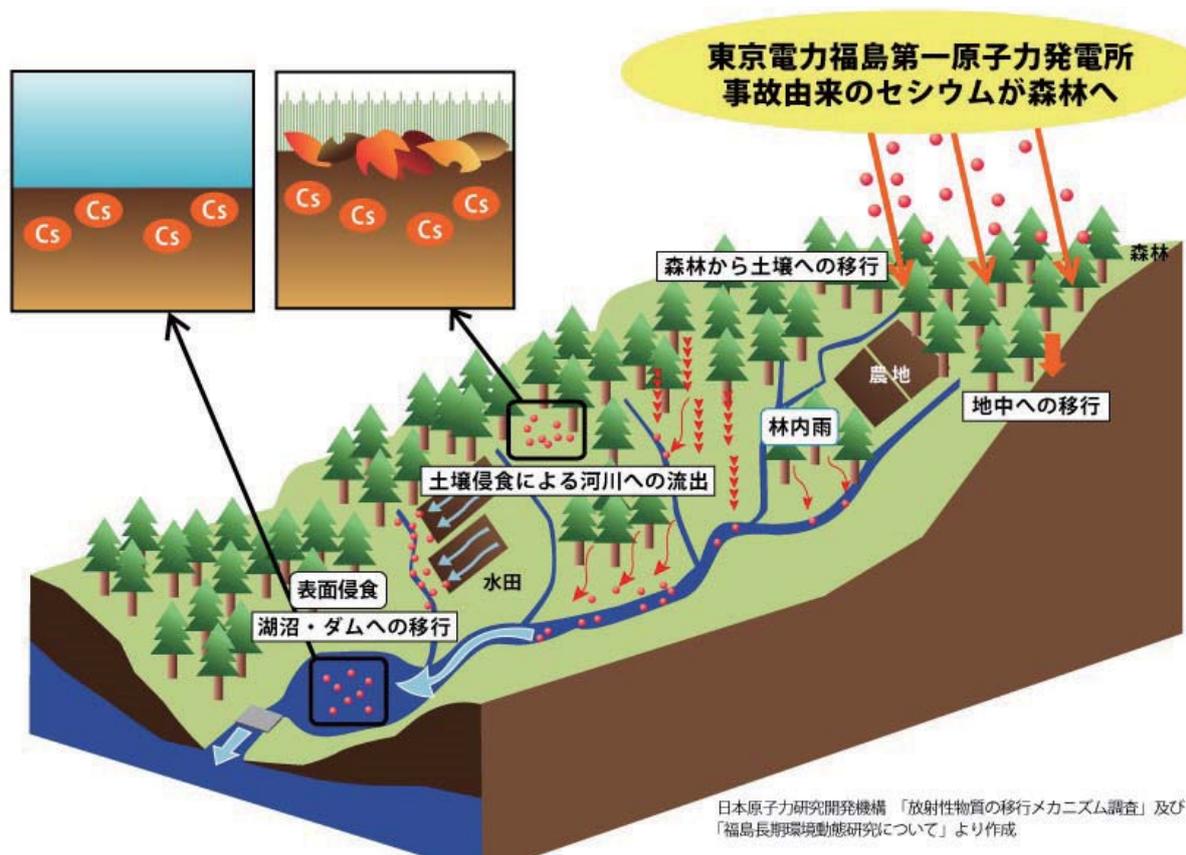
検査結果の詳細は令和4年度版 下巻 30、33、36、41 ページを参照



⑤ 放射性物質の挙動

各種モニタリングの結果では、放射性物質が検出されることは少なくなっています。
環境に放出されたセシウムはどこにいったのでしょうか。

◎ 降下・沈着したセシウムの環境中での移行



上の図は、森林に降下・沈着したセシウムが上流から河口にあるダム湖に流れ込むまでの過程をイラストで示したものです。2つの拡大図は林床とダム湖底質をそれぞれ表しており、どちらもセシウムが土壌表層に堆積していることを表しています。

東京電力福島第一原子力発電所事故によって環境中へ放出されたセシウムの分布は時間経過と共に大きく変化しました。事故直後に樹皮や枝葉に付着したセシウムは落葉や降雨等によって林床へと移行し、現在では90%以上が地表から5cmの深さまでにとどまっていることが分かっています。

セシウムの環境中での移行の詳細は令和4年度版 上巻 185 ページを参照